

令和7年4月1日施行 脱炭素大改正による教材の訂正等 No.5

〔構造 項目別・年度別問題集〕

2025年2月23日

2025年目標 TAC 一級建築士講座

・構造 項目別問題集の追加訂正は次表のとおりです。

日付	頁	誤	正
2/23	P499 No. 776解説	…上限 <u>5</u> 倍…	…上限 7 倍…
	P517 No. 846解説	3. 適当。壁倍率 <u>5</u> を上限とし、… 4. 適当。壁倍率 <u>5</u> を上限とし、…	3. 適当。壁倍率 7 を上限とし、… 4. 適当。壁倍率 7 を上限とし、… (補足) 1. 2. の筋かいのみを用いた場合の壁倍率の上限は5のままです。

・構造 年度別問題集の訂正等は次表のとおりです。

日付	頁	誤	正
2/23	P42 No. 17解説 肢1	…階数 <u>2</u> 、…	…階数 3 、…
	P42 No. 17解説 肢2	…「ルート1-2」とする場合…	…「ルート1-2、 1-3 」とする場合…
	P114 No. 10問題 肢2	…壁倍率 <u>5.2</u> として存在壁量を算定する。	…壁倍率 5 として存在壁量を算定しな け れ ば ならない。
	P140 No. 10解説 肢2	【3ページの※1を切り貼りしてください】	
	P145 No. 15解説 肢3	…（「1-1」と「1-2」がある）…	…（「1-1」、「1-2」、「 1-3 」がある）…
	P199 No. 18解説肢1・2	【3ページの※2を切り貼りしてください】	
	P243 No. 9解説 ①1	H12告示第1352号…	S56告示1100号に基づく…
	P295 No. 9解説 肢4	…上限 <u>5</u> 倍…	…上限 7 倍…
	P296 No. 10解説 肢4	【3ページの※3を切り貼りしてください】	
	P303 No. 18解説 肢1	…（ <u>1-1</u> と <u>1-2</u> がある）…	…（ <u>1-1</u> 、 <u>1-2</u> 、 1-3 がある）…
	P358 No. 18解説 肢1	… <u>1-1</u> 、 <u>1-2</u> では、…	… <u>1-1</u> 、 <u>1-2</u> 、 1-3 では、…

以上のとおり、訂正をお願いいたします。

※ 1 年度別問題集への切り貼り用

2. 不適当。筋かいと面材を併用した軸組の壁倍率は上限 7 倍として、それぞれの和とすることができる。壁倍率 1.5 の筋かいを入れた軸組に、面材の壁倍率 3.7 の構造用合板を併用した場合、耐力壁の壁倍率は 5.2 (1.5 + 3.7) となる。

※ 2 年度別問題集への切り貼り用

1. 適当。鉄骨構造において、層間変形角の確認は「ルート 1-1」、「ルート 1-2」では不要であるが、「ルート 1-3」では必要である。剛性率の確認は「ルート 1-1」、「ルート 1-2」及び「ルート 1-3」全て不要である。偏心率の確認は「ルート 1-1」では不要であるが、「ルート 1-2」、「ルート 1-3」では必要である。
2. 不適当。耐震計算ルート「1-2」、「1-3」では、梁の保有耐力横補剛が必要である。なお、「ルート 1-1」では、スパンが短く、細長比が小さく、横座屈おそれが少ないため、梁の保有耐力横補剛は不要である。耐震計算ルート「1-3」もルート「1-1」同様にスパンが短い、高さ 16m まで建築が可能で部材に生じる応力が大きくなるため、変形性能確保の条件として梁の保有耐力横補剛は必要である。

※ 3 年度別問題集への切り貼り用

4. 適当。構造耐力上主要な柱の小径は、次式から計算することができるが、国土交通大臣が定める基準に従った、座屈を考慮した構造計算による場合はこの限りではない。

$$\frac{d}{h} \geq 0.027 + 22.5 \times \frac{Wd}{h^2}$$

$$\left[\begin{array}{l} d : \text{柱の小径 (mm)} \\ h : \text{横架材間の垂直距離 (mm)} \\ Wd : \text{当該階が負担する単位面積当たりの荷重 (N/m}^2\text{)} \end{array} \right]$$